

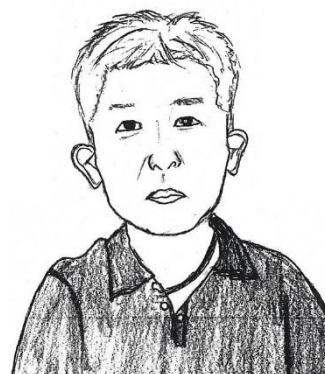
人権だより

No.306(2023.10)

進路保障の取組について

進路部長 三好 君人

	令和4年度	令和3年度	令和2年度
生徒数	14人	30人	22人



皆さんは一年に何回か学級活動、またはホームルーム活動の中で人権について考えたり、学んだり、話し合ったりします。内容は、いじめに関するものであったり、最近ではLGBTに関するものであったり、様々だと思います。6年生

では「就職差別」、「結婚差別」について学ぶことになっています。上に示している表は、愛媛県内の高校生が就職試験を受ける際に不適切な質問をされた具体的な人数を掲載しています。年によって、就職者の数は異なりますが、この3年間2,000人から2,500人ほどの高校生の調査によってこの数字は出されています。多いと思いますか。それとも少ないと思いますか。

では、不適切な質問とは何でしょうか。基本的な考え方は本人の適性と能力を判断する上で関係のない質問です。家族についての質問は当然いけませんし、自由であるべき宗教についても同様です。また尊敬する人物についても、この質問を通して、生活信条や思想を知ることができるよう、してはいけません。

このように、高校生の皆さんが公平に試験を受けて社会に出ることができるよう配慮されています。それでは、進学する人はどうでしょうか。この場合も、進学にあたり提出する書類、面接の際の質問内容について、不適切な事柄が見られた場合は、是正を求める活動が行われています。なぜ、このような取組が行われてきたかについては、ホームルーム活動で詳しく学んでほしいと思います。

就職に関しても、進学に関しても皆さんが不利にならないような取組がなされてきました。皆さんはこの学校での6年間、しっかりと自分自身を鍛え、進路実現を図ることができるよう期待しています。

【保護者の声】 文章を読んだ PTA 人権委員の方の感想です。

自分の思い描く将来を実現させるためには、「今、どんな力を付けることが必要なのか」また「どういう力を育てないといけないか」を日々深く考えることが大切です。そして、進路保障の取り組みを広げるためには、自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする意識を持ち続けることが最も大事であると思います。希望の持てる未来へ、皆さんが進んでいけるよう祈っています。(6年生保護者)

【人権委員の声】

自分が将来、進学・就職するときには、不適切な質問をされていないか意識したいです。不適切な質問にも是正を求める活動が行われていることを初めて知りました。これから自分も学級活動などで学ぶので、詳しく知りたいです。(1年生 人権委員)

私はこの文章を読んで、就職試験を受ける際、不適切な質問をされた人がいることにびっくりしました。家族や宗教のことで、受験の合格・不合格を決めるのはとても不平等だと思います。(2年生 人権委員)

家族や宗教について聞くことが不適切な質問であるということは知っていたけど、尊敬している人物について聞くことも不適切な質問であるということを知りませんでした。不適切であると分からずに聞いてしまう人もいるかもしれないと思ったので、よく考えてから質問することが大切だと思いました。(4年生 人権委員)

就職試験などの面接で、プライバシーを侵害するような質問をされた人がいるということは知っていたけれど、最近の愛媛県で、こんなに人数がいるとは思わず、驚きました。面接では個人の能力や適性のみが問われるので、もし不適切な質問をされたら、容易に答えないようにしたいです。(5年生 人権委員)

自分がその企業や大学、専門学校に合格したいと思う気持ちが強ければ強いほど、面接で問われた質問は完璧に答えたいという気持ちも強くなると思う。でも、問われた質問が自分の人権を侵害するものであれば答えてはいけないし、その質問が今後なされないように行動しなければならない。試験を受ける上で、質問に答える能力も必要だが、不適切な質問に答えない勇気と知識も身に付けるべきだと思った。(6年生 人権委員)

人権教育相談部より

11月3日(金)に行われる文化祭において、人権委員会では日々の活動報告の展示と募金活動を行います。ご協力頂いた方には、この夏に宇和島南の中庭に大輪の花を咲かせたひまわりから収穫した種を、お礼としてお渡しします。一人一人が平和を願い、人権について考える機会になればと思っています。ぜひ、ご協力をお願いします。

